



- 第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって 平成18年9月19日
講師/佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長
- 第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
講師/久米えみさん ながのクラッセ会長
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー
- 第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
講師/鷺沢幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事
- 第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
講師/清水隆史さん フォトグラファーほか
常盤昭二さん CMディレクター
- 第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師/虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト
- 第6回 環境と街づくり ばていお大門・TOiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師/竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長【一級建築士】
- 第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師/木田 勇さん 信濃グランセローズ監督
- 第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師/荻原健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト
- 第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力/「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師/松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授
- 第10回 命のバトンを渡す「ピオトップ」/長野市をピオトップネットワークシティに 平成19年11月14日
講師/松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授
- 第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師/浜このみさん クッキング・コーディネーター
- 第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
講師/角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長
- 第13回 アメリカ生活で感じたあれこれー変化に対して前向きになることの大切さー 平成20年8月19日
講師/針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)
- 第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師/水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長
- 第15回 長野バルセイロ ---- 優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師/バドウ・ビエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン
- 第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師/町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事
- 第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
講師/中山 修さん 中山法律事務所 弁護士
- 第18回 循環備蓄型の農業の実践 --- 宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みる --- 平成21年6月3日
講師/塩澤研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役
- 第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
講師/小出陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー
- 第20回 信州の伝統から生まれる食文化ー漬物の新しい風ー 平成21年9月2日
講師/宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋
- 第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
講師/志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっころしよ/代表理事

- 第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
講師/薩川了洋さん AC長野バルセイロ新監督
- 第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
講師/石沢一男さん (有)田舎工房 代表取締役
- 第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
講師/新谷志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務
- 第25回 逃げないスケルトン ～夢と感動と勇気を～ 平成22年9月15日
講師/越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属
- 第26回 Go to J〜Jを長野にーいよいよ地域決勝大会!〜 平成22年10月25日
講師/鈴木政一さん 長野バルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長
- 第27回 グランドデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
講師/千村尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ
- 第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日
講師/川崎史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表

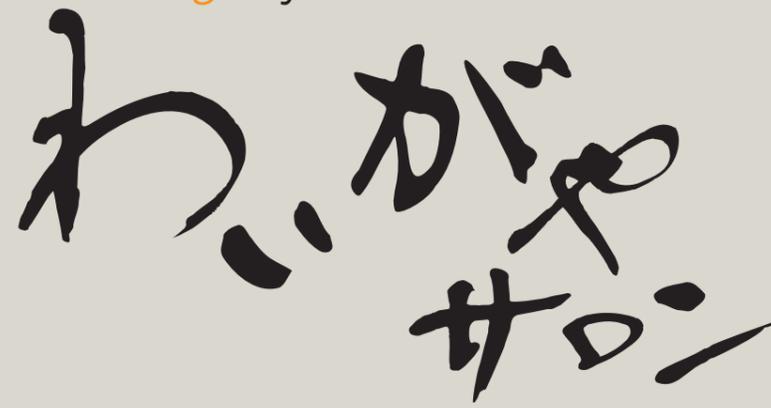
- 第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日
講師/安藤長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長長野県隊長(第二次派遣隊)
- 第30回 江戸のエコロジスト 一茶 平成23年8月30日
講師/マブソン青眼さん 俳人・比較文学者
- 第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日
講師/井上裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員
- 第32回 メディアから見た長野 平成23年10月19日
講師/田幸淳男さん 信越放送取締役相談役
- 第33回 旅の楽しさと長野の魅力で世界をむすぶ 平成24年1月31日
講師/飯室織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営
- 第34回 神輿で街の元気を呼び覚ませ 平成24年2月28日
講師/相原 哲さん ながの町神輿連合会武睦会 会頭



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail:nupri@nupri.or.jp



通信

Vol. 35
2012.4



エムウェーブ

第35回 長野とオリンピックレガシー

平成24年3月26日(月) 18:00~20:00

講師／小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務

■座長 岩野 彰 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911

幾数年に一度の周期で金星・月・木星が一直線に並ぶという特別な宵にNUPRIわいがサロンにお迎えしたのは、4年に一度(夏冬各々)行われる世界のスポーツイベント・オリンピックに深く関わって活躍しておられる小林亨さんです。

世界につながる仕事をしたい

東京で学生生活を送り、就職を考えねばいけなくなったとき、`長野に戻って暮らしたい、`という思いと`世界につながる仕事をしたい、`という思いが錯綜していました。ちょうどそのころ、長野でオリンピック招致運動を起こしているという情報を得て、そうだ、長野市役所に入れば希望がどちらもかなう(!)と長野市を受験しました。面接時に「入れたとしてもオリンピックに関われるとは限りませんよ」と言われたとおり、配属されたのはオリンピックとは縁遠いと思われた長野市立図書館。ところが、分類法を知れたり、バーコードシステム、カード管理などPCの導入期と重なっていたため後々とても役立つこととなったのです。オフの時間はいつか役立つ日のために英語習得やボランティアにあてることも出来ました。

1991年6月15日。サマランチIOC会長の「…NAGANO」、皆さん覚えていらっしゃるでしょう(「会場にいました!」の声)。ある夕、NAOCの方が図書館にやってきました。「オリンピックの仕事をしたいですよね。ノルウェーに行く?」

アクレディテーション(資格認定)

1994年冬の開催に向けて準備を進めているノルウェー・リレハンメルへNAOCからの派遣要員(3人)として出発。リレハンメルはバイアスロンが生活の中に溶け込んでいるような人口二万三千の小さな町でした。ほかの2人とともに`オリンピックとは何か、`大会プロセス、を一から勉強し、日本および長野から視察に訪れる方々の受け入れにも奔走した一年半でした。

この研修で私が特に担ったのはアクレディテーションということ(身分証明と大会施設への入場へのパスポートのような役割等をするカードを作成し管理する。選手・大会関係者・報道・ボランティアすべての人に発行し、大会運営を円滑に進めるカギとなるもの)で、まさに図書館業務で培った土壌あってこそその役割でした。しかし、いざ長野大会ではIOCトップダウンによりリレハンメル方式が使えなくなり、かつアトランタのシステムも改めるということになり、ノーと言えない日本人は頑張りました。ここで質問です。「長野大会ではアクレディテーションカードを使った方が何人いたでしょうか」、会場「1万人」「2万人」。答えは8万5千人です(うちボランティアが3万2千人/運転に関するボラが多かった。リレハンメルは4万2千人、うちボラ9千人)。その国の入国管理法に基づきつつ、「9.11」を挟んでますます強固な安全管理が求められています。



インスブルック/オーストリアで開催された第一回冬季ユースオリンピック大会(2012年1月)



こばやし とおる 1967年、長野市生まれ。1989年長野市に入り、教育委員会、長野オリンピック組織委員会(NAOC)ほかを経て2002年退職。トリノ、バンクーバーに赴任して各オリンピック組織委員会で運営に携わる。現在は日本オリンピック委員会(JOC)の事業・広報部・総合企画・国際担当。ソチやリオの組織委員会の計画準備にも関わっている。長野市から東京・原宿に新幹線通勤

実は他国のオリンピック大会はその道の専門部隊が集まって運営するのが常です。比べて長野大会はほとんど市や県の職員=スポーツイベントに素人の集団だったにもかかわらず、また多くの人々の支えがあって成功裏に終わりました。

退路を絶って、トリノ、バンクーバー…今日、明日

その後ソルトレーク大会に向け組織委員会から声がかかったものの家族のことを考え断念し、年1、2回IOCの会議に顔を出すことはしていました。あるときIOCから「トリノ大会でアクレディテーションの責任者を探している」との情報。トリノからは「トオルはいつから来てくれる?」とオファー。長野に戻って上司および市長に退職のご相談をさせてもらいました。

今思えば自ら後に戻る場所を絶ったことで前へ進められたのです。とは言うものの、見知らぬ土地で、そのうえ初めての責任ポストでしたからプレッシャーから毎晩寝汗をかき、眠れない日々が続きました。けれどもイタリア人の陽気に助けられ、トリノ、続いてバンクーバーでも何とかやりとおすことが出来…2年前、日本に戻ってきました。

JOCの役割(ナショナルトレーニングセンター)

世界には、私が今在籍しているJOCと同様の地域オリンピック委員会(NOC)が204あります。JOCの役割は、オリンピック招致・開催/オリンピック・ムーブメント/ナショナルトレーニングセンター(NTC)の運営/コーチ・役員の育成など多岐にわたっています。

ナショナルトレーニングセンターとはトップアスリート専用合宿所の中核拠点のこと。オリンピック関係者にとっては何十年来の悲願がスポーツ振興基本計画(2000年)により、ようやく夏季競技NTCが東京に生まれたものの、冬季競技NTCは各地に競技別施設が散在する状況です。長野のエムウェーブのほかに国内にある室内スピードスケートリンクをもつ帯広では、明治北海道十勝オーバルは客席が片面ですが、その分、リンクの隣に陸上トレーニング施設をもちます。もし、帯広がさらにトレーニング環境の向上に力を入れていけば冬季競技トレーニングのメッカが長野から帯広に移ってしまうのではないかと感じます。長野市にはスパイラルやエムウェーブほかの立派な既存施設(レジェンド)があります。先日インスブルックのユースオリンピック大会に連れて行った将来のトップスケーターたちがエムウェーブについて「最高っす」「氷が違う!」と言っていた言葉が耳に残っています。毎年行われるスピードスケート全国中学生大会は中学生スケーターにとって「甲子園」のようなもの、今後も長野で大会を続けていってほしい。高度なメンテナンス技術(レジェンド)を途絶えさせないためにも、ぜひ長野がウインタースポーツの拠点として頑張ってもらいたいです。

長野でユースオリンピック開催を!

長野オリンピックが成功したにもかかわらず、海外の人々に長野市の印象が薄いのが残念でなりません。NAGANOの名を再び海外にアピールし、長野市民を元気にする起爆剤として今日、最後にお伝えしたいのがユースオリンピックの開催です。ユースオリンピックは、若い人にオリンピック精神を伝えたいと新しいオリンピックのかたち(スポーツ・文化・教育の融合)としてIOCが推進しているものです。冬季大会の第1回は2カ月前にインスブルックで開催され、その聖火の炎を見ていて「長野でやれたらなー」と思いました。4年に一度の大会(夏・冬)は、IOCのこれからのテーマの一つであるサステナビリティ(環境維持/持続性)を重んじて、既存の施設を使っていくということが開催地条件です。その意味でも長野市は実現大です。

長野が初めて行った一校一国運動はその後の開催地でも受け継がれている素晴らしい遺産(レジェンド)です。ユースオリンピックに名乗りを上げたならば一校一国運動を経験した小学生たちが、きっと動いてくれることでしょう。

「長野にオリンピックを!とぶち上げたときは無茶だと言われたけど実現したね」「今でも賛否両論だが」「ユースオリンピックは過去形の(教育県長野)を再び教育面で盛り上げるにふさわしい」「ユースオリンピック開催をNUPRIから発信しよう」など、縦横に意見が交わされました。



ユースオリンピックは14~18歳/選手1000人、役員500人規模/競技施設・メディアセンター含め新しい施設建設を認めない/文化プログラムの充実が求められる(インスブルック大会では「雪崩はなぜ起きるか」「栄養学教室」など)



ADカードの例。分類法に従って、大会関係者に必要な事項をすべて証明。お札並みの偽造防止を施す

